

平成 22 年 5 月 27 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2009

課題番号：20720055

研究課題名 (和文) 西国・坂東・秩父観音巡礼開創縁起の形成と展開

研究課題名 (英文) The Formation and Development of the Origin of Saigoku, Bando and Chichibu Pilgrimages

研究代表者

久下 正史 (KUGE MASAFUMI)

神戸大学・大学院国際文化科学研究科・学術推進研究員

研究者番号：50432555

研究成果の概要 (和文)：西国・坂東・秩父観音巡礼の開創縁起について研究をおこない、西国三十三所巡礼の近世における開創縁起は、三類型からなることを明らかにした。そして、その内の二類型は、中世にまでさかのぼるものであることを明らかにした。これによって、秩父・坂東巡礼の開創縁起は、西国三十三所巡礼の開創縁起の展開のなかに位置づけられることが明確になった。また、西国三十三所巡礼の開創縁起は、在地伝承とも密接な関連の中で形成されたことも明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：I researched legends of the origin of Saigoku, Bando and Chichibu pilgrimages. As a result of the research, I revealed the legend the origin of Saigoku pilgrimage in the Early Modern Ages is composed of three types. And I revealed the two types of the legend dating back to the Middle Ages. And I revealed legends of the origin of Bando and Chichibu pilgrimages are one type of the origin of Saigoku pilgrimage. And I revealed the legend of the origin of Saigoku pilgrimage has a close relationship with local legends in Hyogo Prefecture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：在地伝承、寺社縁起、巡礼、西国三十三所巡礼、秩父三十四所巡礼、坂東三十三所巡礼、観音巡礼、温泉寺縁起

1. 研究開始当初の背景

巡礼研究は、現代をフィールドとする研

究を除けば、巡礼の成立に関する歴史的な研究と巡礼経路や参詣者の動向についての

地理学的、社会学的研究を中心として進展してきた。

こういった研究動向の中で、西国・秩父・坂東のいずれの巡礼をみても、その開創縁起を正面から取り上げ、論じようとした研究は少ない。また、いままでの諸研究の中で、巡礼の開創縁起について言及するものは少なくないが、かならずしも詳細な文献調査、フィールド調査にもとづいた研究であるとはいえない。

こうした中、2006年に正面から西国三十三所の開創縁起を取り扱った研究が発表された。これは、異伝を含めた伝承の位置づけをおこなおうとする試みとして画期的なものであった。

とはいうものの、この論考における異伝の分類・位置づけは十分なものではなく、周辺の伝承を含めた総合的な検討が必要とされていた。

一方で、本研究代表者も2008年に秩父三十四所巡礼の開創縁起について、成立・展開・背景を総合的にあつかった論考を発表した。この研究の成果によって、秩父三十四所巡礼の開創縁起は、西国三十三所巡礼の開創縁起を在地で巧みに改変したものであることがあきらかとなった。

以上のような研究状況のなか、西国三十三所巡礼・坂東三十三所巡礼・秩父三十四所巡礼の開創縁起の位置づけについて総合的な検討が求められていた。

2. 研究の目的

西国三十三所巡礼・坂東三十三所巡礼・秩父三十四所巡礼について、おのおのの巡礼の起源を語った縁起、すなわち巡礼開創縁起を対象とする。

西国三十三所巡礼・坂東三十三所巡礼・秩父三十四所巡礼の開創縁起のテキストの

収集をおこない、それを類型化することによって、その成立過程・相互の影響関係を明らかにする。

3. 研究の方法

中世から18世紀初頭までの西国三十三所開創縁起、坂東三十三所開創縁起、秩父三十四所開創縁起に関する資料の収集をおこなう。

収集したテキストをデータ化し、その類型を明らかにする。また、データ化したテキストについては、データベース化をおこなう。

また、フィールド調査も積極的におこない、西国三十三所巡礼開創縁起を文献研究だけにおさめず、多様な側面から捉えることを試みる。

4. 研究成果

(1) 調査

西国三十三所巡礼の開創縁起について、文献・フィールドの両面から調査を行った。文献調査の成果として、近世の西国三十三所巡礼の案内記や略縁起を中心として文献を収集し、西国三十三所巡礼開創縁起を二十数例収集することができた。また、坂東三十三所開創縁起、秩父三十四所開創縁起についてもほぼ網羅的な資料の収集をおこなうことができた。

フィールド調査の成果として、山口県や高知県に伝承される巡礼と関連するとみられる性空や花山院の伝承について、寺院や村落に所蔵される文献資料および口頭伝承を中心として、新出資料を豊富に収集することができた。

(2) 研究成果

①西国三十三所巡礼開創縁起の三類型

二十数例の西国三十三所巡礼の開創縁起については、データ化及びデータベース化をおこなった。

その上で、近世を中心として西国三十三所巡礼の開創縁起を分析した。結果として、それらは三類型に分けられることが明らかとなった。

類型①は、従来から一般的に知られている西国三十三所巡礼第二十四番札である所中山寺の縁起にもとづいたものである。

類型②は、十三権者の巡礼再興と巡礼の功德を中心として述べたものである。

類型③は、十三権者の巡礼再興と巡礼の功德を中心として述べたものではあるが、摂津国有馬郡にある温泉寺の縁起を大きく取り込んだものである。

但し、類型②と類型③は密接な関係にあり、大きくみれば類型③は類型②の類型の中におさめることもできる。

②西国三十三所巡礼開創縁起の三類型を設定することによる成果

以上のように西国三十三所巡礼開創縁起を類型化したのであるが、従来、類型①の縁起が西国三十三所巡礼の開創縁起を論じるにあたっては基本的な縁起とされさまざまな議論がおこなわれてきた。

しかし、縁起の流布状況からみると、近世では圧倒的に類型②の縁起が多く、西国三十三所の開創縁起を論じるにあたっては、類型②を基本として分析をすすめるべきであることが明らかとなった。

さらに、近世の縁起の類型から中世の西国三十三所開創縁起を俯瞰することによって、中世の縁起も近世の類型①と類型②のなかで論じることができるとも明らかとなった。逆にいえば、中世の縁起の類型が近世にも基本的に引き継がれ、展開しているこ

とがあきらかとなった。これによって、西国三十三所巡礼の開創縁起の中世から近世の展開を連続的に捉えることが可能となった。

一方、類型③は、本研究の成果として明確になった類型であるが、西国三十三所開創縁起の趣旨にもとづいて、在地伝承を巧みに取り込んでいる。近世に成立した伝承であり、また類型としてはおおきくは類型②に含まれるとはいうものの、西国三十三所巡礼開創縁起が在地伝承と密接な関係をもつことを示す重要な伝承であることがあきらかとなった。

③坂東三十三所巡礼・秩父三十四所巡礼開創縁起の位置づけ

秩父三十四所・坂東三十三所巡礼の開創縁起に目を移すと、これらの縁起は、西国三十三所の開創縁起の類型②の展開の中に位置づけられることが明確になった。

本研究代表者の既存の研究（「秩父三十四所巡礼開創縁起の形成」『説話・伝承学』16、説話・伝承学会、2008年）の成果と総合すると、秩父・坂東巡礼の開創伝承を、在地伝承として捉えたこれまでの研究から大きな進展をみることができた。

(3) 課題と展望

課題として、西国三十三所巡礼開創縁起は、三類型に分類できることがあきらかとなったが、更に詳細な分類が今後の課題となる。また、分類を精緻化することによって、個別縁起の特性も明らかになり、縁起の背景を考察するうえで重要なデータとなるであろう。

縁起成立の背景については、解明が困難であり、今後の課題の部分も多い。フィールド調査の成果として収集すること

ができた資料については、現在分析中であるが、巡礼との関連は示すものの、在地伝承としての性格が強く、西国三十三所開創縁起として一括して論じることは困難である。今後、別の観点からの検討も並行してすすめていく必要があるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①久下正史、中山寺板「西国三十三所巡礼来由」、久里、26号、神戸女子民俗学会、2010(刊行予定)、査読有
- ②久下正史、三重県伊賀市の『冥途蘇生記』に関わる伝承—三重県伊賀市長田平尾大師講聞取及び「えんまさんの御詠歌」翻刻、久里、25号、神戸女子民俗学会、2009、99-102、査読有
- ③久下正史、兵庫県揖保郡太子町斑鳩寺蔵『斑鳩寺常什物帳』翻刻、日本文化論年報、12号、神戸大学大学院国際文化学研究科日本学コース、2009、101-115、査読なし
- ④久下正史、キツネとダイサン、鶴山論叢、9号、鶴山論叢刊行会、2009、1-18、査読なし

[学会発表] (計5件)

- ①久下正史、西国三十三所開創縁起と『冥途蘇生記』、御影史学研究会、2010年6月27日(予定)、神戸市東灘区民センター
- ②久下正史、温泉寺清涼院縁起と西国三十三所巡礼開創縁起、神戸女子民俗学会、2010年6月17日(予定)、神戸女子大学
- ③久下正史、西国三十三所巡礼開創縁起の誓言をめぐって(「ミニシンポジウム 西国

巡礼縁起」のパネラーとして、「ミニシンポジウム 西国巡礼縁起」は恋田知子、久下正史がパネラーとなる)、仏教文学会、2009年10月31日、京都女子大学

他2件

[図書] (計1件)

- ①篠山市教育委員会編『篠山市福住地区伝統的建造物群保存対策調査報告書』、篠山市教育委員会、2009

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久下 正史 (KUGE MASAFUMI)

神戸大学・大学院国際文化学研究科・学術推進研究員

研究者番号：50432555